

## 活動報告

|            |   |
|------------|---|
| 団体名        | Project 九州  |
| 活動名        | 心理的危機状態の予防、および子供の遊び場支援のための活動  |
| 活動期間       | 2018年4月～2019年3月   |
| 活動の成果      | <p>「Project 九州」は臨床心理士を中心とした団体です。被災者の方の心理的危機状態（うつ、自死、依存症、PTSD、孤立など）を予防・軽減することを目的として熊本地震後に設立されました。しかし、発災直後の混沌とした状況では、「お悩みはありませんか」と話しかけても抵抗感を持たれる方が大半です。そのため、通常時に私たちが一対一で行うような介入を直接行うことは困難でした。そこで、カフェ活動と並行して、参加しやすく生活への意欲を引き出すようなイベントとしてももの作り（作っても作らなくても良い）の活動も行いました。これによって、単なるカフェ活動では「話すことがないから」と言って寄り付かなかった方も、“もの作りを通して一緒に過ごす”ことができたようです。そのような関りの中で、心理士としての視点を持ちながらお話を伺ったり、時には専門職として行政や各支援団体とも連携をしてきました。研修や講話を依頼されることもあり、今後の支援の参考としていただけたようです。また、今後も有事の際に連携して活動できるよう、心理職のネットワークづくりにも力を入れ、少しずつですが日本各地にその輪が広がっていているところです。</p>  |
| 寄付者へのメッセージ | <p>皆様からの暖かいご支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。</p> <p>この第5次の活動におきましては、より長期を見据えた支援の視点を持つ必要性を感じさせられました。特に当団体のような県外の団体は、散発的にしか被災地域に足を運べないということもあり、このフェーズからは地元の支援者をサポートするという視点も取り入れ、臨床心理士ならではの視点を活用した支援者向け研修なども、現地熊本で行わせていただくことができました。</p> <p>また、仮設住宅などの活動におきましても、第4次のフェーズまでは当団体が主催してイベントを持たせていただくことが多かったのに対し、当フェーズにおいては、地元団体が主催するイベントを補助するような役割を担わせていただく形を心掛け、より長期的に地元の団体が支援を継続できるように働きかけて参りました。</p> <p>さらにはこれまで寄付のおかげで活動経験を豊富にいただけたことで、臨床心理の専門職の学会でこれまでの活動の蓄積を整理して発表させていただくことができました。今後の専門職としての支援の在り方を構築するための一石を投じることができたと感じております。</p> <p>ボラサポ九州の助成による当団体の活動はこの3月で終結とさせていただきましたが、今後も地元の団体を有形無形にサポートさせていただき、今までにできたご縁に沿いつつ、必要に応じて細く長く支援を続けて参りたいと念じております。</p> <p>皆様、本当にありがとうございました。</p> |

(活動のようす)

